

牛久：学校周辺に見る自然

第11号 ひたち野うしく小、牛久二中

2010年5月24日発行

＜アブラムシをめぐる、生き物のつながり ～ その2＞

生き物どうしのつながりについて、前回の続きです。 前回はアブラムシを食べるテントウムシについてお話しましたが、アブラムシに集まるのはテントウムシだけではありません。

①アブラムシに集まるアリ



アブラムシには、テントウムシだけでなくアリもよく集まっていることを誰かが教えてくれました。アブラムシは植物の若い茎や葉に口吻をさし、その汁を吸って、つまり植物の栄養を横取りして生活しています。このような関係を「寄生」といいます。植物の種類によって、それに寄生するアブラムシの種類も決まっているのだそうです。不思議ですね。

そしてアブラムシは必要な栄養分を吸収すると、残りを肛門から排せつします。排泄物は糖分を含んでいて甘く、左の写真のように、これを求めてアリが集まるのです。

②テントウムシを追い払うアリ

アリはアブラムシの排泄物を片付けるだけでなく、そこを餌場として確保するために、右の写真のようにテントウムシなど他の生物が来たときに追い払ったり、捕まえて食べたりします。このアブラムシとアリのような、どちらにも利益になるような関係を「(相利)共生」といいます。



③アブラムシを食べるアリ



ところが、よく観察していると、左の写真のような場面に会うことがあります。そう、アブラムシを守るどころか、捕まえて食べたり、巣に運んでいったりするのです。アリにとってアブラムシは、動物性タンパク質としても価値が高く、アブラムシがたくさんいる時や、甘い露をあまり出さなくなったものは食べられてしまうのです。見方を変えれば、アブラムシは危険なアリを甘い露でなだめながら、テントウムシなどから守ってもらっているということになりますね。また植物にとってアブラムシは害虫ですが、アリがたびたびやって来ることで、葉を食べる虫を追い払ってくれることにもなり、益



虫の面も持っているのです。いろいろな生き物が、バランスを持ってつながり、共存しているのですね。

【理科支援員・宮内】 おまけ・アブラムシを突き刺し体液を吸うサシガメ ↑